

げんき通信

アルコールのお話

これからお酒を飲む機会が増えてきますね。お酒は楽しいものですが、「身近な薬物」という側面も持ち合わせていて、急性アルコール中毒、アルコール依存症、飲酒運転の原因ともなります。

飲んだアルコールの約20%は胃から、残り80%が小腸から速やかに吸収され、肝臓に運ばれます。アルコールの大部分は肝臓で代謝分解されます。アルコールからアセトアルデヒド(二日酔いの原因物質)を経て酢酸になります。酢酸は血液によって全身をめくり、筋肉や脂肪組織などで最終的には水と二酸化炭素に分解されて排泄されます。アルコールは血液循環によって脳にも届き、脳の神経細胞に作用して麻痺させます。その結果が酔った状態です。

【ほろ酔い】日本酒1〜2合、ビール中瓶(500ml)1〜2本程度を飲んだ状態です。陽気でお喋りになりはしやぐなど、お酒の席でよく見る光景です。酔っていないつもりでも、アルコールの影響

はすでに出ています。

【酔酩】日本酒4〜6合、ビール中瓶4〜6本程度飲むと足がふらつくようになり、感情が不安定になって、怒ったり泣いたりしやすくなります。記憶が途切れたり、バランス感覚が麻痺して転倒などの事故も起こしがちです。

【泥酔】日本酒だと7合〜1升、ビール中瓶だと7〜10本程度とかなりの量の場合です。ひとりでは立てなくなり、何を言っているのか分からない状態で、激しい嘔吐が起きることがあります。吐いた物が気管に入ると窒息したり、また交通事故にあつたりと、危険な状態です。様子によっては病院に連れていった方が

自分の酒量をわきまえて、ほどほどに楽しみましょう。



《中町店薬剤師/いのうえ》

安心です。

【昏睡】日本酒だと1升超、ビール中瓶だと10本以上と大量に飲んだ状態で、意識がはっきりしません。揺すっても呼んでも起きなくなり、呼吸中枢が麻痺して死に至ることもあります。直ちに救急車を呼ぶことが必要です。

一気飲みをすると、血中アルコール濃度が急激に上昇するので、前段階を飛び越して「泥酔」「昏睡」の状態にまで進んでしまいます。こうなると、低血圧や呼吸困難など危険な状態になります。お酒に弱い体質の人にお酒を強要することは命に関わる危険な行為です。

お酒を飲んでもすぐに酔っわけではありません。吸収され、血液に入って脳に到達するまで数十分かかります。食べながらの場合さらには遅くなります。そのため、飲んだ直後は酔った感覚がなくても、後に必ず酔いが回ってきます。

アルコールの代謝には思っている以上に時間がかかります。体重60kgの成人男性でビール中瓶1本のアルコールが体から消えるまで約3時間〜4時間も必要です。これはあくまで目安で、体格、体質、性別により異なります。深夜まで飲み続けられ、翌日の午前中はお酒が抜けていないこととなります。朝運転する人は、控えるにしてください。

C O L U M N

げんきコラム

薬も大掃除!



どこのご家庭でも、救急箱や引き出しの中に、いつ誰が何の時にもらったかわからない薬が残っていると思います。薬には使用期限があり、外用剤に印字されているのは未開封の場合の期限です。目薬や塗り薬などは変質する可能性が高いので使いかけの保管はよくありません。処方せんでもらった薬を別の人が使うと不都合が起きることもあります。「どうしよう…?」という時は薬剤師にお尋ねください。



酔酩...

処方せんはぜんぶ「くぼ薬局」におまかせください。すべての病院・医院の処方せんを受け付け責任を持って調剤いたします。

あなたのまちのくすり箱



●中町店 ☎26-2817 FAX 28-0802 ●木原店 ☎24-2233 FAX 24-4227 ●中の小路店 ☎24-2882 FAX 24-4503

●西与賀店 ☎22-2311 FAX 29-2777 ●北茂安店 ☎0942-89-1777 FAX 89-1888 ●医大通り店 ☎32-1133 FAX 21-1344

●本部: 県庁通り店 ☎23-4550 FAX 26-8585